



神奈川県立 生命の星・地球博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

友の会通信

118

2022.12

Vol.26 No.3 通巻118号 2022年12月15日発行(年4回発行)



今年は、コロナ禍でも感染防止対策をしっかり行い、多くの講座が実施できました。
しばらくこのような状況は続きそうですが、引き続き、対策をしっかりとりながら、友の会活動を行って参ります。

目次

事務部より	2
博物館NOW	3
情報クリップ	3
活動報告	4
学芸員の雑記帳	7
友の会コーナー整理整頓てんまつ記	8
行事案内	9

事務局より

2022年度友の会第4回役員会の開催

2022年9月17日（土曜）午後より、博物館講義室にて第4回友の会役員会を開催しました。

会計状況等の報告では、新たに22名の会員が入れたこと、中間会計監査を10月8日（土）に行うこと、講座で使用する友の会旗が完成したことなどの報告と、会費の単年度納入を来年度から予定しており、そのための周知等を通信で行うことなどが話合われました。

事務局からは、会員へのアンケート実施について、役員や講座担当者向けの「友の会マニュアル」の改定状況等について報告されました。

企画部からは、下半期の行事の確認（すべて実施の予定）と、来年度の講座の企画募集について内容やスケジュール等の周知と、講座担当者会議を11月5日（土）オンラインにて実施する旨の報告がありました。

その他として、ミューズフェスタ2023は実施の予定とのこと。友の会としての企画を次回役員会で検討することとなりました。



友の会旗

●友の会運営のお手伝いを募集！

友の会では運営のお手伝いをしていただける方を募集しています。資料の発送や会計事務、友の会通信の企画・作成、ブログ等での情報発信作業など、ご興味のある方はお気軽に事務局までご連絡ください。

（友の会事務局）

TEL:0465-21-1515、E-mail:kpmtomo@ybb.ne.jp

アンケート「友の会運営について」の実施

友の会設立から25年がたちました。

近年のコロナ禍においても多くの方が友の会活動にご支援・ご参加いただき、大変ありがたく感じています。

一方、これは以前からの課題ではありますが、役員や講座担当者の新陳代謝があまり進んでおらず、今後の安定的な友の会活動の継続に懸念があるところです。また、4月の総会時においても、友の会の課題や今後の方針等について、会員の意見を聞く場を、とのご意見もありました。

そこで今回、友の会運営について、会員の皆様よりご意見等を伺いたいと思います。

ぜひ忌憚ないご意見等を頂ければ幸いです。

今回のアンケートでは、講座等、友の会の活動の評価に加え、会員の皆さまとのコミュニケーションについて、伺っています。現在、通信やブログなどによる友の会事務局側からの一方通行的な情報提供が主となっており、意見交換などは年1回の総会の場が主なものとなっています。

こうしたことを改善すべく、例えば、双方向のSNSツールの活用などについて、皆さまがどう思われるか、などもお聞きしたいと思っています。回答はがきのスペースが少ないため、ご意見等はできればメールアドレス（kpmtomo@ybb.ne.jp）宛にいただくと幸いです。

なお、このアンケートを踏まえ、役員会等で検討し、来年度の総会で今後の友の会運営について議論したいと考えています。よろしくお願いいたします。

会費納入方法変更のお知らせ

現在、会費の納入については、複数年度での納入を可能としています。来年度より、単年度のみの納入（2,000円）とする予定です。

理由としましては、会計年度ごとの決算をわかりやすくすること、作業の複雑化（会員ごとに会費払込みの年度が違う等）や退会された方への対応など事務作業の煩雑化を回避するためです。

代わりに、納入方法の利便性の向上、例えば自動引落やアプリ等からの納入の実現など新たな仕組みを検討します。

何卒、ご理解いただき、ご協力お願いいたします。

博物館NOW

「友の会の皆さま、はじめまして」

企画情報部長 植村 良彦



友の会の皆様、こんにちは。
今年4月に着任しました植村です。これまで、県庁に入庁して以来、様々な職場を経験してまいりましたが、教育委員会への配属ははじめてとなります。会員の皆さま、今後ともどうぞよろしくお願い致します。教育委員会への配属ははじめてですが、当館が小田原市入生田の地に移って間もない頃、西湘地域で観光関係の業務を担当していました。当時、当館について非常に集客力がある施設ができたということで、観光関係の方の間でも話題になっておりました。私自身も訪れる機会は何度かありましたが、今、振り返ると博物館の表の姿しか見えていなかったような気がします。4月に着任以降、実際に博物館の運営を見て、これだけの施設と膨大な数の収蔵品を管理しながら、多くの県民の期待に応え続けられてきたのも、友の会のみなさまをはじめ、様々な方々の活動とご協力によるものと改めて感じました。

博物館というと、かつては遠足や社会科見学で行くことが多く子どもが中心というイメージがありましたが、人生100年時代と言われる昨今では、生涯学習の機会を求め多くの方が来館されるなど、博物館を取り巻く環境も大きく様変わりしてきているように感じます。博物館制度自体も、こうした社会の変化を踏まえ、制定から70年が経過する博物館法が、来年4月に改正される予定です。改正博物館法では、博物館の目的に文化芸術基本法に基づき、多様な主体との連携・協力により地域の活力向上に取り組むことが努力義務とされるなど、博物館に求められる機能も大きく変わろうとしています。

当館も、展示や資料の収集をはじめ、これまで様々な事業を展開し、多くの歴史を積み上げてきておりますので、一夜にして大きく変わることは難しいかと思いますが、これからは友の会のみなさまとともに、博物館の発展のために、私自身も微力ながらお力になれたらと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

情報クリップ

2022年度 友の会会員数：357名（10月31日現在）
正会員：354名／賛助会員：3名

●「2022年度 子ども自然科学作品展」のお知らせ



開催期間：2022年12月17日（土）～
2023年1月9日（月・祝）

夏休みの自由研究や日頃に行っている調査研究の成果など、自然科学に関する小・中学生の研究作品を展示します。コロナ禍にも関わらず、今回も数多くの力作が寄せられました。作品の一つひとつに当館学芸員のコメントが付けられ、児童・生徒の皆さんの今後の研究の参考にもなります。

●博物館からのお知らせ

博物館では、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止し、来館者の皆さまの安全確保に努めるため、感染症拡大予防対策を実施しています。感染拡大状況により、臨時休館や来館予約制による入館制限を実施している場合もあります。最新の情報は、博物館ウェブサイトや公式Twitterでお知らせしますので、ご来館の際は必ず事前にご確認ください。

問合せ先：神奈川県立 生命の星・地球博物館

企画普及課 TEL：0465-21-1515

FAX：0465-23-8846

- ・ウェブサイト：<https://nh.kanagawa-museum.jp/>
- ・公式Twitter：@seimeinohoshiPR
- ・混雑情報Twitter：@seimeinohoshiCI

活動報告（地話懇話会）

◆「特別展動画プロジェクトの裏側」

2022年8月24日（水）／博物館講義室・山神社
／13名／講師：山下・田口・西澤学芸員／スタッフ：3人

特別展「みどころ沢山！ かながわの大地」に関連する懇話会を実施した。参加者はコロナ禍の影響もあり13名と少なかったが、大変面白い企画であった。

最初に、山下氏・田口氏から動画プロジェクトの意図についての説明があった。これまで当館ではあまり手がけてこなかった手作り動画だが、今回、実物と解説に加えて映像による現地の様子と学芸員による解説が加わることで、大変臨場感のある展示を意図したとのこと。

続いて、博物館にほど近い山神社に移動し、実際に動画を収録する作業を見学。祠に見られる風祭石と呼ばれる溶結凝灰岩は、早川を埋める大規模な火砕流があったことの証拠という説明がされた。

再び、館の講義室に戻り、収録した動画を再生。撮影時の苦労話や工夫した点などについてお話いただいた。

計画では、まだまだ多くの収録したい候補地もあり、ホームページやYouTubeへのアップも考えられているとのことだが、そのためには全てに字幕を付ける作業があり、手間がかかるそうだ。実現が楽しみである。

参加者の感想では、「動画の撮影現場を見ることができて面白かった」という声が多かった。意外とコンパクトな撮影機材や、学芸員のフットワークの軽さなど、舞台裏に関心が集まっていた。

特別展に関しても、「8つのエリアに分けた点がわかりやすかった」「神奈川県全体の地質がよくわかる企画」「動画があるととてもわかりやすい」など、賛同的な意見が多かった。会期は既に終わっているが、今回の動画は、いつでも見たい代物である。YouTubeへのアップを期待する声が多かった。（谷 圭司）



山神社で実際に動画を撮影する様子を見学



撮影した動画を視聴しながら裏話トーク

活動報告（生物間共生講演会X）

2022年9月10日（土）／博物館講義室／21名／講師：小野久弥氏（北里大学准教授）

9月10日（土）に、友の会講座生物間共生講演会の第10回目として、「細菌と私達、実は身近な細菌たち」が開催されました。

講師は、青森県にある、北里大学十和田キャンパスからお越しいただいた、小野久弥先生です。

講演の前半では、細菌（バクテリア）とは何か？という導入から始まり、ペストやコレラなど代表的な細菌感染症の紹介。

そして、その研究とは、人類と、細菌を含んだ微生物との戦いの歴史でもあったのです。

最初の抗生物質ペニシリンの発見（1928年）は、この物質が黄色ブドウ球菌に卓効が認められ、漆黒の闇を照らす福音となりました。その後も数々の抗生物質が見つかりましたが、細菌側も呼応するように、抗生物質に対する耐性を次々と獲得して、際限のない泥沼の様相を呈するに至っています。この構図は人類史にも共通する内容ですね。

後半は、先生のご専門である、食中毒を引き起こす細菌に関するお話になりました。

食中毒の概要や、その原因菌になるチフス菌、サルモネラ菌、ボツリヌス菌、黄色ブドウ球菌、腸管出血性大腸菌O157などにまつわる、興味深いトピックス。

個々人はもとより、人類の興亡にも関わりかねない話ですので、細菌に対して、改めて恐怖と畏敬の念を感じます。また、そのような研究が、現代において、どのように行われているかといった話は、貴重な見聞です。

今回の講座は、私にとっても、細菌は生物顕微鏡でも見えないほど小さすぎて、その実像をいまいち把握できていない生物群でしたので、新鮮な発見をたくさん得られるものでした。とりあえず、先生が学生のころに感銘を受けた本として紹介された、「細菌の逆襲」（吉川昌之介、中公新書）を読んで理解を深めたいと思います。（友の会：Y.H）



研究対象とは対症的に大柄の先生、汗をかきかき、熱心にご説明

活動報告（植物観察会）

◆「身近な植物観察入門」

2022年10月22日（土）／博物館周辺／7名（スタッフ含む）／担当：植物グループ

今回の参加者は初参加1名、リピーター3名です。まずは博物館の周りの木々を見渡してから、ナラ枯れが起きるしくみと毒キノコ「カエンタケ」について説明しました。

駐車場の脇に生えていたハキダメギクの白い舌状花の花弁の先が3つに分かれていることや、茎にびっしりある腺毛の先端が赤黒いことなどを観察しました。参加者からは「花の真ん中はヒマワリみたい」との弾んだ声があがりました。吾性沢方向を目指す途中、崖に生えていたホラシノブ、ミツデウラボシ、カニクサ、ゲジゲジシダ、ホシダなど観察し、シダの葉身と葉柄はどこをさすのか、1枚の木の葉と比較して話しました。からまって伸び続けるカニクサ全部で1枚の葉？不思議ですね。

住宅が途絶えたあたりからは、葉や茎に刺があるムカゴイラクサ、触るとレモンの香りがするレモンエゴマ、果実から出る粘液で指にくっついてなかなか離れないオカダイコン、羽毛状に変化した花柱を付けたハンショウヅルの果実などを見ていきました。ほとんどの植物は果実の季節に移り変わっていましたが、そんな中でもイヌショウマの白い花、満開のヤクシソウ、咲き始めの花と去年の果実を付けたキチジョウソウを見ることができました。写真を撮る人、ささっとノートに絵を描きつける人、それぞれのスタイルでゆっくり観察していると、あっという間に2時間の観察会終了時間になってしまいました。最後に本日の感想を伺うと「こんな楽しい世界があるとは知らなかった」「少しずつ知識を吸収したい」などの声をいただきました。（佐竹順子）



ヤクシソウ



イヌショウマ



キチジョウソウ



それぞれのスタイルで楽しく観察

『身近な植物観察入門』中止

2022年9月24日（土）に予定しておりました「身近な植物観察入門」は雨天のため中止いたしました。

『秋草の衣笠山公園』中止

2022年10月6日（木）に予定しておりました衣笠山公園（横須賀市）での観察会は雨天のため中止いたしました。

活動報告（里山むしてくクラブ）

◇大人の昆虫講座「カメムシを知ろう」

2022年9月24日（土）／実習実験室／伴光哲氏
（千葉県立中央博物館研究員）・渡辺恭平学芸員／
11名（スタッフを含む）／里山むしてくクラブ

ここ数年、植物を見るときに一緒に目に入ってくるカメムシ。特に南の島のカメムシは美しい。子供のころの臭いカメムシのイメージは吹っ飛びその色の変化に魅入られている。そこへこのぴったりの講座。

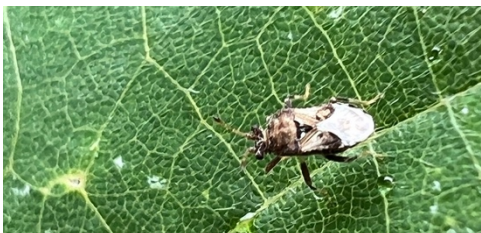
まず講師の伴先生からカメムシ目（もく）が非常に大きい目だというお話を聞く。なんとセミやアメンボ、アブラムシ、シラミ、グンバイムシなども同じカメムシ目に含まれるとか。私の美しい洒落た色のカメムシのイメージが崩れる。目だからワイドレンジで仕方がないか、と無理矢理納得。先祖的カメムシ目は土の中で生活し肉食性、その後水性のアメンボの仲間、水際に住む仲間などいろいろなカメムシの仲間が出現したらしい。カメムシの知識がもっとあれば更に興味が深まるお話で知識のないのが残念。

伴先生の現在のフィールドの千葉県と神奈川県のカメムシの分布の違いなど環境を含めてお話しください。その後カメムシを捕まえるにはどんな環境を探せばよいか、つまり何を食べているか、というお話。

そしていよいよ実践編。伴先生、捕虫網を手には博物館の庭に。狙うカメムシにより網の振り方が違うと見せて下さる。クズの葉にはマルカメムシがいることが多いから、と話しているとマルカメムシ。葉の裏を見ると幼虫を含め結構たくさん見つけられる。橘ハラビロヘリカメムシも見つかると。メダカナガカメムシはその名の通り、目が突き出ていて面白い。地面にすることが多いというクロモンサシガメも見つかると。その後オオメナガカメムシ、スコットヒョウタンナガカメムシ、ウスモンミドリカスミカメ、チャパネアオカメムシなども見る事ができた。

伴先生と渡辺先生のむし屋さん談義も楽しくあっという間に講座は終了。続編を期待します。

（友の会 小久保恭子）



メダカナガカメムシ

◆昆虫観察会「秋になった虫たちはどうしてる？」

2022年10月4日（火）／小田原市久野／渡辺恭平学芸員／9名（スタッフを含む）／里山むしてくクラブ

お天気に恵まれた観察会。講師は渡辺恭平先生。里山むしてくクラブの皆様がサポートして下さい。観察地はおだわら諏訪の原公園バス停を起・終点とした畑地〜尾根筋。水生昆虫を含め約50種を観察できた。

前半の畑地を抜けるコースではスマトラカモドキバチ、ミズキの葉にアゲハモドキの幼虫、ホソミイトトンボ、クビキリギス雌、カネタタキ、ヒメハラナガツチバチ、ヒラタアブ sp.、チョウセンカマキリ、ウスバキトンボ、ツチイナゴ（体に沢山毛が生えている）、ハラビロカマキリ、クモを食べるクモヒメバチ sp. の繭（クモの巣の真ん中にあった）、アミダテントウ、アオマツムシ雌、ヒメクダマキモドキ、生まれたばかりと思われるルリタテハ（皆様夢中で撮影）、ミカン畑の貯水槽ではコマツモムシ、マツムシ、ヒメガムシをたっぷり観察。その近くでジョウカイモドキ、シラホシカメムシ、コツチバチ sp.、アカタテハ幼虫、ヒメアカタテハ、オスグロハバチ雌等を観察した後、日陰を探して昼食タイム。

後半は尾根筋へ。オオシロフクモバチ、ヒロバネヒナバタ、オオミノガ蛹、アトキリゴミムシ sp.、ツマアカヒメバチ、ジガバチ、ベニシジミ、ツルガハキリバチ等を観察しゴール。「晴れている割に虫が少なかったのは農薬の影響」という先生のお話に胸が痛んだ。

私は緑地で植物の手入れをするので、虫の生活も知っておきたいと参加した。沢山の学びを頂き有難うございました。（友の会 中山真希子）



キバナコスモスのヒメハラナガツチバチ

学芸員の雑記帳⑨

学芸員 渡辺 恭平

文献収集の楽しみ

生き物を含め、あらゆる物事を深く知るためには、文献を読み込むことが欠かせません。従って、昆虫を調べるために、日々文献を集めて、読み込む必要があります（なので、博物館にはライブラリがあるのです）。野外で昆虫を探し、珍しい種に出会うことは最高の醍醐味の一つですが、文献収集も突き詰めてゆくとそのような面白さがあります。

文献の収集法は購入や複写があります。購入する場合も、新本、中古、中古でもオリジナルのもの、その版違い、あるいはオンデマンドで安価に印刷したものなど、様々な対象があります。文献収集の専門家はオリジナルを重視しますが、希少本はプレミアがつき、財力が必要なので、私はオリジナルにこだわらず、お財布を見ながら集めています。

中古書店で文献を探していると、しばしば著者のサインがついた本が入手できます。こういう本は、ある研究者が高齢や退職を理由に文献を放出し、それが古書店に出回ったときに入手できることが多いです。古本屋の在庫を見ていて急に在庫が充実した時がねらい目ですが、古本屋によってはサインの有無を書かないこともあるため、運試的な楽しみもあります。

いままでに私が入手した文献の中から、とっておきのものを一つ紹介しましょう。ヒメバチ研究の神と私が崇拝する米国の H. Townes 博士の代表作

「Genera of Ichneumonidae」です。この本はヒメバチ研究の必須文献でありながら、オリジナルの流通量は少なく、古本屋にもほとんど出てきません。PDF が簡単に購入できるため、私も長らく PDF を用いてきましたが、ヒメバチの研究者を名乗る以上、いつかはオリジナル版を入手したいと、日々古書店のサイトを覗いていました。

ある日、海外の古書サイトを覗いていたところ、「Genera of Ichneumonidae」がイギリスの古本屋から出品されているではありませんか！ハードカバーと書いてあることから、これはオリジナルに間違いありません。全4冊のうち、3冊が出品されていて、一冊あたりたったの18ドル！イギリスから送料込みでも3冊70ドル程度と驚くべき安さでした。あまりに安いのでまがい物である可能性もありましたが、早速注文してみました。

後日、届いた本の表紙をめくり、私は腰を抜かすほど驚きました。なんと、Townes 博士直筆のサインと R. O. Richards 博士寄贈を示す蔵書印がありました（図1）。つまり、この本は著者であるタウンズ博士が、英国在住のハチ類（とりわけ社会性ハチ類）の世界的権威であるリチャード博士に寄贈し、その後リチャード博士が図書館に寄贈した本のように。この本が、蔵書整理により除籍本となり、それが古書店で販売され、巡り巡って私の手元に来たということです。この本は米国→英国→日本と3か国、少なくとも3名のハチ研究者の手元を渡り歩いたと言えます。例えばこれがスポーツ選手や音楽家のものであれば、庶民には手の届かない価格となっていたでしょう。私が狂喜したことは言うまでもありません。このような出会いはめったにありませんが、文献収集の面白さの一つといえるでしょう。

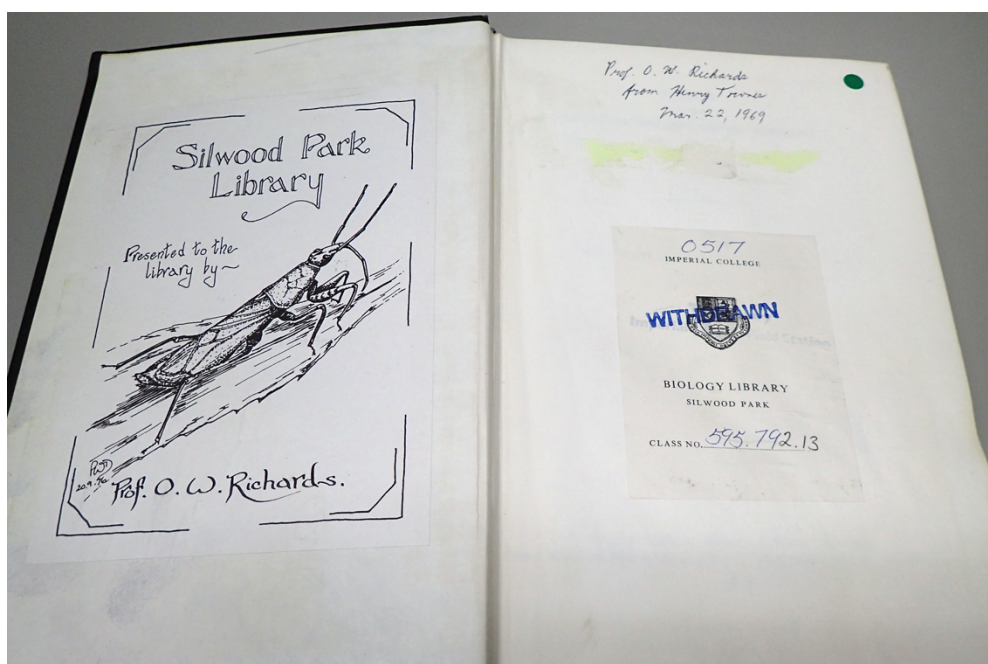


図1. Townes 博士サイン（右上）と Richards 博士寄贈を示す蔵書印（左）。

友の会コーナー整理整頓てんまつ記 副会長 飯島俊幸

◆ 作業した日

- ① 6月25日(土) 10:00～12:00
- ② 7月02日(土) 13:00～16:30
- ③ 7月17日(日) 13:00～16:30

◆ 作業に参加した人

本杉弥生(企画普及課)、廣井隆史(会計)、
関口康弘副会長、北浦明三(会計監査)、
飯島俊幸副会長



友の会コーナーはこの衝立の奥に

友の会コーナーは、博物館二階にあるボランティア室の一角にある。ボランティア室は主にボランティアの人たちの活動の起点になっている。たくさんのロッカーが並び、テーブルと椅子が置かれていて、ボランティアの人たちの昼食を摂る場所にもなっている。ちょっとした打合せ室としても使われることがある。その一角を衝立で仕切ったところに友の会コーナーが置かれている。広さは一坪くらいだと思われる。この中に、友の会の活動で使われるいろいろなものが押し込まれている。その中に今迄二十数年間にわたって発行してきた「友の会通信」や「自然科学のとびら」の印刷物が段ボール箱などに入れられて山と積み、それが崩れ落ちそうなどころまで来ていた。これを何とかしようということになり、今迄のバックナンバーを一定数保管して、後は片付けようということになった。



この段ボールの山は一坪余りの友の会コーナーの中から出てきた整理対象品の一部である。「友の会通信」や「自然科学のとびら」を主として整理整頓し、他のものも使い勝手が

良くなるようにしようということになり、そのためにスチール製の四段式棚一客とボックス型ホルダーを多数購入することになった。



まず、6月25日(土) 午前中に鋼鉄製棚の組み立てをした。この組み立てがとても難しく、大人四人がかりでやっと完成し、午後からの発送作業・役員会に間に合った。



貯まっていた友の会通信を年号ごとに整理

7月2日(土)に「自然科学のとびら」を1995年から2022年まで各号20部ずつをボックス型ホルダーに整理した。日を改め、7月17日(日)には、ほぼ同じようにして機関誌・「友の会通信」を整理し、スチール製棚の「自然科学のとびら」の同じ年号の前部分に「友の会通信」のボックス型ホルダーを配置して、必要な時に検索しやすいようにすることが出来た。



これで会員の皆さまからバックナンバーのお問い合わせがあったときはすぐに対応可能となった。

お疲れ様でした。

行事案内

◆ 地図を楽しもう！

フィールドに出て地図があればもっといろいろなことがわかるのに、という方にお勧めの講座です。本講座では地図に載っている情報を知り、これを活用するためのコツを学びます。地図が少しでも理解でき身近なものになれば、情報満載の地図を持つてのフィールドでは楽しさ倍増です。講座は午前中地図の読みかたを学び、午後は地図を持って歩きます。

日 時：2023年1月28日（土）10：00～15：30

場 所：博物館実習実験室・博物館周辺の屋外

講 師：新井田 秀一 当館学芸員

対 象：おとなの方（小学高学年以上同伴も可）

定 員：14名（定員を超えた場合は抽選）

参加費：会員 400円（地形図代・資料代・保険料など）
非会員 600円（同）

持ち物：筆記具、色鉛筆、昼食、申し込みはがき、
お持ちの方はコンパス（方位磁石）

注意事項：マスクの着用をお願いします。午後は屋外に出ますので、歩きやすい服装と防寒への対応をお願いいたします。

締切り：2023年1月7日（土）必着

問合せ：関口 080 - 6508 - 9840



前回の観察会の様子

◆ 地話懇話会

「相模国分寺の立地と使われた礎石の産地推定」

今回の地話懇は、野外（海老名）で開催！ 奈良時代（天平）に相模国分寺建立の際に用いられた礎石に注目します。

日 時：2023年3月15日（水）14:30～16:00 ごろ

場 所：海老名駅～相模国分寺跡周辺

講 師：田口公則 当館学芸員

対 象：友の会会員 大人 30名

申込み：往復ハガキ利用事前申込制です。

2月17日（金曜）必着

備 考：詳細は別刷りのチラシ、ブログにて。



相模国分寺跡巨大七重の塔礎石

◆ 植物観察会 『片倉城址の春植物を楽しむ』

片倉城址は多摩丘陵にあり、片倉駅近くの自然と歴史豊かな公園です。春早く、北側斜面の雑木林には、カタクリやニリンソウ、アズマイチゲ、カイコバイモなど春植物が咲き誇ります。

日 時：2023年3月27日（月）10:00～14:30

雨天中止

場 所：片倉城址（東京都八王子市）

集 合：JR 横浜線片倉駅 10:00

解 散：同駅 14:30 頃

講 師：田中徳久学芸員

対 象：大人 15名

（応募者多数の場合抽選）

参加費：600円／人（保険、資料等）

申込み：3月6日～3月12日の間に、件名を「3月27日観察会申込み」とし、本文に氏名、住所、電話、年齢、会員番号、連絡先メールアドレス

を記入して、下記アドレス宛てにメールで申し込んでください。

shokubutsuG@gmail.com

電話での申込み：メールアドレスのない方は3月11日・12日の19:00～21:00の間に、電話で申し込んでください。

申込み・問合せ：田畑（080-5645-7987）

当日の連絡： 田畑（同上）、
浅川（090-6538-6843）

＊新型コロナウイルス感染状況によっては、募集人数の変更や、観察会を中止する場合があります。



カタクリ



カイコバイモ

友の会主催行事の参加申し込みについて

◆行事案内に申込み方法が指定されていない場合
往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務局までお送りください。

■必要事項：行事名／開催日／参加者全員の氏名・年齢（学年）／会員番号／代表者の住所・電話番号／指定事項

◆行事案内に申込み方法が指定されている場合は
指定された方法（メール・電話等）にてお申し込みください

注意！

■参加費は友の会会員1名分の金額で、内訳は資料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記事項に記載があります。バスなど予約が必要な場合、参加者個々に材料を購入する場合などの講座参加確定後のキャンセルは、代わりの方をご紹介いただくか、参加費を負担していただく場合があります。

■オープンの行事は会員以外の方も参加できます（参加費が会員とは異なる場合があります）。

■小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。

■チラシの発行されない行事もありますので、直接＜連絡先＞へお問い合わせください。

■持ち物など詳細は返信はがきに記載されます

ー広報部よりー

2018年度から通信の編集作業は外注から広報担当者が行っています。編集作業や新規企画提案など通信作成のお手伝いをいただけると非常に助かります。お手伝いだけの方は、下記メールアドレスにご連絡ください。よろしくお願いします！

次号は、2023年3月15日発行予定です。

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
Vol.26、No.3、通巻118号 2022.12.15 発行

編集：友の会広報部

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499

TEL：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846

E-mail：kpmtomo@ybb.ne.jp

Blog：<http://blog.livedoor.jp/kpmtomo>

Twitter：@kpmtomo